日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会
〒641-0011 和歌山市三葛580番地
和歌山県立医科大学保健看護学部内
専用FAX番号：050-3737-1042
発行責任者・森岡郁晴（地方会会長）
http://jsoh-kinki.jp

第58回近畿産業衛生学会

主　　催　日本産業衛生学会　近畿地方会
後　　援　和歌山県医師会、和歌山産業保健総合支援センター
大 会 長　岩根　幹能（新日鐵住金 和歌山製鐵所／NSメディカル・ヘルスケアサービス）
日　　時　平成30年11月10日（土）　9時25分開始
会　　場　和歌山県JAビル　（JR和歌山駅西口から西へ徒歩2分）
テ ー マ　「ダイバーシティ（多様性を）＆ インクルージョン（内包する）」
一般演題　9：30〜10：40　和ホールAB、和ホールC
教育講演　10：50〜11：50　和ホールAB
「加熱式タバコの構造、蔓延の実態、使用者への対応とこれからの喫煙対策」
座　　長：平田 真以子　クボタ 人事部 健康管理室　保健師
演　　者：大和 浩　　産業医科大学 健康開発科学　教授
幹 事 会　12：00〜13：00　2-A会議室
ランチセミナー　12：00〜13：00　和ホールAB
「職員が急性心筋梗塞を発症！さあどうする？」
座　　長：宮川 昌也　京都工場保健会 産業保健推進部　医療次長
演　　者：猪野 靖　　和歌山県立医科大学 循環器内科　講師
代議員会　13：05〜13：35　和ホールAB
表 彰 式　13：35〜13：55　和ホールAB
基調講演　14：00〜15：00　和ホールAB
「パーソナリティ障害とは、いかなる障害なのか？」
座　　長：岩根 幹能　新日鐵住金 和歌山製鐵所／NSメディカル・ヘルスケアサービス
演　　者：花谷 隆志　花谷心療内科クリニック　院長
シンポジウム　15：00〜17：00　和ホールAB
「パーソナリティ障害のインクルージョン」
座　　長：栗岡 住子　桃山学院教育大学　教授
岩根 幹能　新日鐵住金 和歌山製鐵所／NSメディカル・ヘルスケアサービス
「1次予防〜パーソナリティ障害が不適応に陥りにくい職場づくり〜」
演　　者：松田 雅美　花王 和歌山工場　保健師
「2次予防〜事例化したパーソナリティ障害への対応〜」
演　　者：麦谷 耕一　新日鐵住金 和歌山製鐵所／NSメディカル・ヘルスケアサービス
「3次予防 〜パーソナリティ障害の復職支援〜」
演　　者：長見 まき子　関西福祉科学大学 健康福祉学部　教授
「パーソナリティ障害への配慮と限界点」
演　　者：三柴 丈典　近畿大学 法学部　教授
企業展示　1階アグリテラス
懇親会　17：30〜　和ホールC
ホームページ　http：//jsoh-kinki.jp/jsohkinki-58/

学会開催のご挨拶

新日鐵住金和歌山製鐵所／NSメディカル・ヘルスケアサービス　**岩根　幹能**

産業保健の領域には、健康保持増進施策、メンタルヘルス対策、過重労働対策、化学物質対策、治療と仕事の両立支援など幅広い課題があり、産業保健スタッフに求められる役割は年々増えてきています。これらの課題における一つひとつの事例は多様性をはらんでいますが、その多様性がたとえ極端であったとしても企業活動から排除せず、内包することが求められてきています。なぜなら、会社の中の弱者やマイノリティを排除しようとする企業風土は従業員を萎縮させ、不正や隠ぺいを生みだし、やがては企業価値を毀損する原因となり得ることが認識されるようになったからです。逆に、多様性を受けとめられる企業はメンタルヘルスの問題が生じにくく、治療と仕事の両立がしやすいでしょう。多様性が認められるがゆえに自由な発想が提言され、従業員が安心して能力を発揮することにつながるものと思います。

産業保健スタッフは、多様性を呈する根底的な理由を理解し、多様性を受け入れることができる懐の深い企業風土づくりを支援することが求められています。そこで、本学会のメインテーマを「ダイバーシティ（多様性を）＆インクルージョン（内包する）」としました。

教育講演では、喫煙対策のオピニオンリーダーをお招きし、新型タバコ製品時代の喫煙対策をどのように進めて行くべきかといった内容のご講演をいただきます。ランチセミナーでは急性心筋梗塞の最新の治療と、復職後の留意点についてご講演いただきます。基調講演とそれに続くシンポジウムでは、パーソナリティ障害を取り上げることにしました。メンタルヘルス対策の中でも、パーソナリティ障害という個人脆弱性を持つ従業員への対応には苦慮することが多いと思います。パーソナリティ障害というダイバーシティをどのようにインクルージョンするか、産業保健スタッフの腕の見せどころではないでしょうか。そこで、まずはパーソナリティ障害の本質を理解するための基調講演を予定しています。続くシンポジウムでは、パーソナリティ障害のあるメンタルヘルス不調者のインクルージョンについて、産業医、保健師、EAP機関それぞれの立場からご講演いただくとともに、法的視点からの捉え方についてもご講演をお願いすることにしています。

懇親会では、大阪北新地の名うての老舗が出張して下さることになりました。また、紀州の地酒や果実酒を取り揃えてお楽しみいただきます。

学会当日･翌日は「第2回 全肉祭 in 和歌山城 2018秋」が、翌日には「第18回 和歌浦ベイマラソン with ジャズ（ジャズマラソン）」が開催されます。この機会に和歌山への旅をお楽しみください。

第57回近畿産業衛生学会プログラム

一般演題（口演）

9：30〜10：40　和ホールAB

座長：津野 香奈美（和歌山県立医科大学 衛生学講座）
今野 由将（新日鐵住金 製鋼所）

（101）集団減塩教室の参加者とその家族への効果について
青木 美恵（全国健康保険協会 和歌山支部）他

（102）製薬企業営業職を対象とした電子メールを用いた生活習慣病予防のための健康情報配信による効果
重松 美智子（田辺三菱製薬株式会社）

（103）特定保健指導における連続横断研究〜BMI削減目標値は指導効果と相関するか？〜
西田 典充（京都工場保健会）他

（104）職業性ストレス簡易調査票に基づくストレス要因と肥満との関連、並びに緩衝要因による交互作用についての検討
手塚 一秀（大阪がん循環器病予防センター）他

（105）A自治体二次医療圏にある病院で勤務する看護師の首尾一貫感覚（SOC）とストレス反応との関連
吉田 えり（森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科／和歌山県立医科大学 大学院）他

（106）仕事のモチベーションと心理的ストレス反応から

みた「職場タイプ判定」の分析
　倉谷 昂志（京都工場保健会）他
（107）職場のソーシャルキャピタルを高めるための職場ミーティングの実際
　栗岡 住子（桃山学院教育大学）

9：30〜10：40　和ホール C

座長：森岡 郁晴（和歌山県立医科大学 保健看護学部）
　　喜多岡 蓮美（新日鐵住金 尼崎製造所）
（201）事業所における体力測定結果からみる転倒リスクと口腔保健行動を含む生活習慣の関連について
　吉田 俊香（NS メディカル・ヘルスケアサービス）他
（202）健康診断結果にみる最近 15 年間の飲酒習慣の推移
　礒島 康史（京都工場保健会）他
（203）がん患者の療養と職業生活の両立支援について：和歌山県の実態調査
　森岡 郁晴（和歌山産業保健総合支援センター）他
（204）訪問看護ステーションにおける事業継続計画（BCP）に関する文献レビュー
　巽 夕起（大和大学 保健医療学部 看護学科／東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科）
（205）茶狩り作業における安全衛生上の課題〜信楽茶農家での事例検討〜
　岩倉 浩司（滋賀医科大学 社会医学講座）他
（206）公務員の振動工具取扱作業者における冷水浸漬試験前後の有所見率変化
　竹村 重輝（和歌山県立医科大学 医学部衛生学教室）他
（207）測位システムを活用したばく露位置特定の試み
　宮内 祐介（中央労働災害防止協会）他

教育講演　和ホール AB　10：50〜11：50

「加熱式タバコの構造、蔓延の実態、使用者への対応とこれからの喫煙対策」
座長：平田 真以子　クボタ 人事部 健康管理室　保健師
演者：大和 浩　産業医科大学 健康開発科学　教授

幹事会　2-A 会議室　12：00〜13：00

ランチセミナー　和ホール AB　12：00〜13：00

「職員が急性心筋梗塞を発症！さあどうする？」
座長：宮川 昌也　京都工場保健会 産業保健推進部
　　医療次長
演者：猪野 靖　和歌山県立医科大学 循環器内科　講師

代議員会　和ホール AB　13：05〜13：35

表彰式　和ホール AB　13：35〜13：55

第 58 回近畿産業衛生学会　優秀演題賞
第 58 回近畿産業衛生学会　若手奨励賞

基調講演　和ホール AB　14：00〜15：00

「パーソナリティ障害とは、いかなる障害なのか？」
座長：岩根 幹能　新日鐵住金 和歌山製鐵所／NS メディカル・ヘルスケアサービス
演者：花谷 隆志　花谷心療内科クリニック　院長

シンポジウム　和ホール AB　15：00〜17：00

「パーソナリティ障害のインクルージョン」
座長：栗岡 住子　桃山学院教育大学　教授
　　岩根 幹能　新日鐵住金 和歌山製鐵所／NS メディカル・ヘルスケアサービス
「1 次予防 〜パーソナリティ障害が不適応に陥りにくい職場づくり〜」
演者：松田 雅美　花王 和歌山工場　保健師
「2 次予防 〜事例化したパーソナリティ障害への対応〜」
演者：麦谷 耕一　新日鐵住金 和歌山製鐵所／NS メディカル・ヘルスケアサービス
「3 次予防 〜パーソナリティ障害の復職支援〜」
演者：長見 まき子　関西福祉科学大学 健康福祉学部　教授
「パーソナリティ障害への配慮と限界点」
演者：三柴 丈典　近畿大学 法学部　教授
指定発言：花谷 隆志　花谷心療内科クリニック　院長

日本医師会認定産業医　生涯研修専門　基調講演 1 単位、シンポジウム 2 単位、教育講演 1 単位
産業保健看護専門家制度研修単位　基調講演 1 単位、シンポジウム 2 単位、教育講演 1 単位、ランチセミナー 1 単位

企業展示　1 階アグリテラス　9：00〜17：30

ドリンクサービス、会場 Wi-Fi アクセスキー掲示

懇親会　和ホール C　17：30〜

　しなの路、鮨処 多田

第 58 回近畿産業衛生学会開催要項

1. 各種申し込み

（1）事前参加申し込み：参加者数把握のため、学会ホームページからの事前申し込みにご協力ください。

（2）お弁当：ランチセミナーのお弁当は事前申し込み制です（費用：￥500）。

（3）懇親会：完全予約制です。

（4）託児所：設置を検討中です。詳細についてはホームページをご覧ください。

10 月 25 日（木）	懇親会 申込み締め切り
11 月 01 日（木）	事前参加登録 締め切り、昼食申込み締め切り
11 月 09 日（金）正午	一般演題発表スライド 受付締め切り

2. 受付

11 月 10 日（土）8 時 45 分～16 時 00 分　2 階廊下にて受け付けます。

クロークの準備はありません。

3. 参加費

学会員 1,000 円、非会員 2,000 円、大学院生･学生 1,000 円（学生証をご提示ください）

日本医師会認定産業医単位申請 3,000 円（1～4 単位取得可能です）

懇親会参加費 4,000 円

4. 一般演題の座長、演者へのご案内

一般演題の構成は、発表 7 分＋質疑応答 3 分（移動時間込み）です。

発表方法は Windows 版 PowerPoint（Office 2007 以降）のみとします。画面の解像度は XGA（1,024×768）（4:3）でお願いいたします。標準フォント以外は正常に表示されない可能性があるため、使用を避けてください。動画ファイルをご希望の方は、事前に事務局へご相談ください。

発表用データを学会前日の 11 月 9 日（金）正午までに事務局へメール添付でお送り下さい。原則として、学会当日の受付・差し替えはいたしません。メールの件名は「発表データ（名前）」としてください。

11 月 9 日（金）14 時までに受領確認の返信メールをお送りします。14 時を過ぎても返信メールがない場合は、恐れ入りますが事務局に電話で確認してください。

紙資料を会場配布される場合はセッション開始前までにご自身で準備・配布をお願いします。

5. 懇親会

17：30 から和ホール C で開催します。料理は同ビル内の「しなの路」からのケータリングサービスを受けるだけでなく、大阪北新地の老舗「鮨処 多田」が出張してお寿司を握ってくれます。事前準備の関係で、完全予約制とさせていただきます（10 月 25 日（木）締め切り）。ホームページからお申し込みください（参加費 ¥4,000）。紀州の銘酒、果実酒も準備しますので、ぜひご参加ください。

6. 問合せ先

運営事務局　産業保健アシスト　河村 沙江子

TEL: 06-6123-7525、E-mail: jsohkinki-58@ohassist.jp

7. 実行委員

大会長　：岩根 幹能（新日鐵住金 和歌山製鐵所／ NS メディカル・ヘルスケアサービス 産業医）

事務局長：麦谷 耕一（新日鐵住金 和歌山製鐵所／ NS メディカル・ヘルスケアサービス 産業医）

実行委員：（50 音順）

喜多岡 蓮美（新日鐵住金 尼崎製造所　保健師）

今野 由将（新日鐵住金 製鋼所　産業医）

竹下 達也（和歌山県立医科大学 公衆衛生学講座　教授）地方会幹事

津野 香奈美（和歌山県立医科大学 衛生学講座　講師）

長見 まき子（関西福祉科学大学 健康福祉学部　教授）産業衛生技術部会幹事

平田 真以子（クボタ 人事部 健康管理室　保健師）産業看護部会幹事

宮下 和久（和歌山県立医科大学　学長）

森岡 郁晴（和歌山県立医科大学 保健看護学部　教授）近畿地方会長、産業医部会幹事

平成30年度　第二回幹事会議事録

日　時：2018年10月4日（木）18：30～19：30
場　所：あべの貸会議室リンク大阪　ルームC
出　席：森岡・中西・井上・圓藤（吟）・鈴木・廣部・日高・伊藤・上原・圓藤（陽）・清原・佐藤・鮫島・豊川・堤・濱田・藤岡・村田・岩根
欠　席：久保田・大脇・竹下・丸山・藤吉・森口（順不同・敬称略）

1. 平成30年度予算の見直しについて
日本産業衛生学会地方会担当理事より予算案の見直し依頼があり、修正案を提出したとの報告があった。
2. 平成31年度予算案について
上記で見直した予算案に基づいた予算額を提出する予定であるとの説明があった。近畿産業衛生学会開催助成金の増額・追加請求について意見交換がなされた。
3. 選挙制度担当者会議からの報告
模擬電子投票、地方会会長・監事・代議員選挙についての報告があった。
4.「大学・部会・研究会等との連携」プロジェクトの進捗状況
第6回研究室訪問の説明があった。詳細はホームページより行うこととした。
5. 第58回近畿産業衛生学会（2018年11月10日）の進捗状況
岩根大会長から準備状況の説明があった。
6. 第59回近畿産業衛生学会（2019年）の準備状況
日程と会場の調整中であるとの説明があった。
7. 第60回近畿産業衛生学会（2020年）の会長委嘱
次回幹事会で推薦することとした。
8. 第67回近畿地方会総会日程および会場
6月8日土曜日に大阪市立大学医学部学舎で開催することとした。
9. その他
（1）地方会ニュースの発行状況とHP更新状況
村田広報担当幹事から、地方会ニュースの発行状況の報告とHPのアクセス件数・更新件数についての報告があった。
（2）本部理事会報告
圓藤理事と廣部理事から説明があった。
（3）その他
次回の幹事会は、11月10日（土）12時から、和歌山県JAビルで開催予定。

選挙管理委員会からのお知らせ

1）近畿地方会長選挙について
8月20日を締切日として受理した「立候補または推薦」による候補者は、千谷容子、中西一郎（敬称略、五十音順）の2名でした。

2）近畿地方会監事選挙について
8月20日を締切日として受理した「立候補または推薦」による候補者は鮫島真理子、千谷容子、廣部一彦（敬称略、五十音順）の3名でした。

3）日本産業衛生学会代議員の選挙について
8月5日を締切日として受理した推薦による代議員の被選挙人候補者の会員番号は335件でした。中央選挙管理委員会から届いた平成29年度より引き続き正会員であり、かつ7月31日までに会費を全納した正会員の名簿と突合しました。その結果、291名が合致しました。さらに、7月31日までに近畿地方会に転入し、被選挙人の条件を満たす3名を選挙管理委員長推薦として加え、被選挙人数は294名になりました。
この記事を読まれる頃には上記選挙は終了しているものと思われますが、ご報告申し上げます。

4）理事候補者選挙について
11月に今回の選挙で選出された代議員による理事候補者選挙（投票期間：11月16日（金）0：00 ～ 11月22日（木）23：59、開票日：11月24日（土））を行います。理事候補者選挙は日本産業衛生学会ホームページ上の電子投票システムで行います。新しく代議員に選出された皆様には11月中旬頃に理事候補者の名簿と電子投票の案内を郵送します。電子投票前に日本産業衛生学会ホームページ（https://www.sanei.or.jp/）に会員ログインし、プロフィール変更にて現在使用されているメールアドレスおよび自宅住所情報（代議員名簿の内閣府提出にあたって必要です）をご登録・ご確認いただき、変更があれば変更してください。ご協力の程よろしくお願いいたします。

選挙管理委員長　佐藤 恭子
選挙管理事務局長　津田 恵理

禁煙治療・禁煙支援のためのトレーニングプログラムの紹介

禁煙治療・支援のeラーニングプログラムを学会員は無料で利用できますので、是非ご利用ください。申込は11/1開始。
詳細はhttp://www.j-stop.jp/をご覧ください。

故　住野公昭先生を偲んで

住野公昭先生の写真

住野公昭先生は、昨年よりご闘病中でしたが、今年（平成30年）3月5日にご逝去されました（享年79歳）。その後、生前のご業績が称えられ、正四位瑞宝中綬章が授与されました。

先生は兵庫県西宮市のお生まれです。昭和38年に神戸医科大学をご卒業になり、翌年に同大学大学院博士課程（公衆衛生学教室）に進学され、以来、喜田村正次教授のご指導を受けられることになりました。昭和51年に神戸大学医学部公衆衛生学教室の助教授となられ、昭和54年には喜田村教授の後任として、同教室の第二代教授に就任されました。平成14年に神戸大学退職後は、甲南女子大学で教鞭をとられ（平成14年～平成23年）、また中央災害労働防止協会の大阪労働衛生総合センター所長も務められました（平成21年～平成29年）。

住野公昭先生のお名前が一躍世界に知れわたることになったのは、先生が有機水銀化合物の分離測定法を世界で初めて確立され、メチル水銀の生体内動態を解明されたからです。また、ボストン丸事件を契機に、加鉛ガソリンの有害性ならびにその生体内動態を研究されて、その成果が「四アルキル鉛中毒予防規則」の全面改定につながったことも、先生の重要な業績として挙げなければなりません。それ以外にも、たとえば排ガス中の発がん物質、食品中のダイオキシン、イタイイタイ病患者のカドミウムについても、各種測定機器を用いて、精力的に研究を推進されました。さらに、先生は政府の各種審議会にも参加されていて、産業関連行政、保健・医療関連行政の指針作成に貢献されています。

上述した内容の繰り返しになりますが、住野先生は、高感度ガスクロマトグラフィーを駆使して有害化合物の分離測定の道を切り開いた先駆者です。特に水俣病、第二水俣病の原因物質であるメチル水銀は、住野先生が開発・確立した方法によって、分離測定が初めて可能になりました。先生のお仕事に感動した私が「研究者の心得」を住野先生にお訊ねしたときのことです。先生は「喜田村先生がえらかったからな。私は運が良かっただけかな。」と言われました。私は、少しはぐらかされたような気がしました。しかし、住野先生のお人柄を知るにつれて、この答え方がいちばん住野先生らしいと思うようになりました。いま、住野公昭先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授　西尾　久英

「第２回近畿産業看護部会交流会・研修会」に参加して

宇部興産（株）堺工場・環境安全グループ・健康管理室

野村　杏子

第１部の産業看護職交流会では、様々な職場で活躍される看護職とお話することができました。違う環境で働く看護職と情報交換できたことで、自分の職場の良い所や課題を再発見することができました。産業看護職は１人職場で働いていることも多いのではないかと思います。私も１人職場で働いていますので、日々の仕事の疑問を相談したり、情報交換できる同僚がいないことに悩んでいました。交流会に参加させていただき、経験豊富な先輩方とお話できたことで、自分にはなかった考え方やアイデアをいただけたり、これから先の３年後、10年後にどんな産業看護職になりたいのか、どんな働き方をしたいかというキャリアについても考えることができる貴重な機会となりました。

第２部の研修会では、脳心疾患・過労死予防のための健診結果活用方法について学ぶことができました。判例を用いながら過重労働と脳心疾患発症リスクについて丁寧にわかりやすくお教えいただきました。事業者が安全配慮義務を適切に果たせるよう、いかにして事業者へ健診結果を伝えていくかが重要であると改めて気づくことができました。また、高血圧症、糖尿病、脂質異常症に対する治療の最新ガイドラインについても学ぶことができました。日々の業務に追われがちですが、こうした研修会に参加したり自己学習を継続したりしながら、知識をブラッシュアップしていきたいと思いました。労働者が元気で働き続けられること、そして退職後も元気で長生きできることを目指して、これからも努力していきたいと思います。

最後になりましたが、こうした貴重な研修の機会を与えていただけたことを心から感謝いたします。運営を支えてくださった近畿産業看護部会幹事の皆様、講師の廣部先生、そして会員の皆様、本当にありがとうございました。

大学・部会・研究会の連携プロジェクト　研究室訪問

大阪労災病院 治療就労両立支援センター　久保田　昌詞

第４回報告

第４回の研究室訪問は2018年６月２日土曜日の午後、兵庫医科大学医学部公衆衛生学教室（島正之教授）をお訪ねした。

前半は田中茂美先生から「企業が直面している現場での問題点」と題してお話を伺った。製造現場での最近の課題として、1）人間関係の希薄化、2）（4Kは減ったが慢性的な人員不足による業務や労働形態の多様化による）労働ストレス、3）AI・ロボット・自動化により機械作業と人手作業が混在していること、4）働き方改革による時間外労働上限の厳格化、5）労働者の高齢化に伴う配慮の必要性、などを取り上げられた。様々な製造ライン上の問題とその解決策の事例を紹介されたうえで、1）コミュニケーションをよくする、2）誠実･正直･公正・不屈の精神で行動する、3）機械の特性を周知し、安全教育を充実する、4）事故の背景を注意深く分析して職場全体で改善し再発を防ぐ、などにより「安全で安心して働ける現場を創る」重要性を述べられた。

後半は島教授から「アジア諸国における大気汚染と海外赴任者への注意」と題して、特にアジア新興国における大気汚染の影響について話された。1）中国で話題となってきた$PM_{2.5}$は最近では在留邦人が増えているインドでも深刻となっていること、2）大気汚染による死亡者数はWHO推計（2016年）で約700万人で、そのうち約1/3は循環器疾患によること、3）$PM_{2.5}$の環境基準は日本では１日平均値で35 μg/m^3であるが、中国やインドでは少し高めの基準になっていること、4）１日平均値が70 μg/m^3を超える時には不要・不急の外出や屋外での長時間の運動を減らすこと、5）外出時にはマスクの装着、屋内では空気清浄機の活用も健康影響防止につながること、などを話され、根本的な解決のためには、国や地域での大気汚染改善対策が求められると結ばれた。その後、質疑応答が行われ、参加者にとって極めて有意義な時間であった。

第５回報告

第５回の研究室訪問は2018年８月24日金曜日の午後、中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター（以下、中災防大阪センター）をお訪ねした。

冒頭、所長の圓藤吟史先生（大阪市立大学名誉教授）が開会の挨拶をされ、中災防の沿革について説明され、「全ての働く人々に安全・健康を～Safe Work, Safe Life～」を目標とし、「技術サービス」「研修･セミナー」「情報発信」を３本柱に事業場の安全衛生活動を総合的にサポートする組織であると紹介された。

続いて、健康快適推進室室長補佐の鈴木規子氏から健康確保推進事業の概要を説明された。３本柱の一つ、「研修・セミナー」ではTHPの６種の専門職向けの研修や、メンタルヘルスに関してストレスチェックや職場環境改善を含めた多彩な研修を行っているとのことであった。

次に分析測定室長の西野入修氏から分析測定・環境測定事業について説明された。特殊健康診断やばく露評価に必要な尿中、血液中、毛髪中の化学物質または代謝物の分析、レアメタルや石綿等空気中濃度の測定・分析を行っているほか、尿中MOCA、尿中o-トルイジン、尿中ナフトールなどについての新たな分析手法の開発やそれによる測定を行っておられ、なかでも尿中o-トルイジン測定は大阪センターでのみ行っているとのことであった。

現在、分析測定室のイチオシの事業が「VEM（Video Exposure Monitoring）サービス」で、作業者にモニタリング装置（有害物測定）とウエラブルカメラを装着し、作業の映像とモニタリング装置による測定データを同期再生させるシステムである。ばく露状況を「見える化」し、作業改善や作業環境改善に役立てることができる。このシステムを分析測定室係長の宮内祐介氏らによって実演された。

その後、分析室を見学し、作業環境測定に使う器具の説明やガスクロマトグラフ質量分析計GC/MSや最新の液体クロマトグラフ質量分析計LC/MSなどの説明を受けた。

１時間半にわたり、中災防大阪センターの事業内容について見聞して、特に化学物質の安全衛生における最後のゴールキーパーであることを認識した。

次回、第６回は2018年12月14日金曜日午後４時から、大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室（玉置淳子教授）を訪問させていただくことになりました。詳細は後日地方会HPにてご案内いたします。

会員の声

これまでを振り返って

（株）横河ブリッジ
総務第二・人事課
大城戸　友美

私は、中央労働災害防止協会（中災防）の大阪労働衛生総合センターを退職後、地域包括支援センターや病院に勤務していました。その頃、高齢者や、入院し、寝たきりになった方々が、若いころから気を付けていれば、こんなことにならなかったのかなという後悔を何度も耳にすることがあり、再び、産業衛生の場へ戻り、同じ後悔をする人を減らしたいという思いが強くなり、今の職場に勤めるに至っています。

今までの転職は、産業・福祉・臨床とそれぞれかなり異なった場所で活躍する分野だったため、今までの経験を生かすというよりも全く新しい分野で働き覚えていく、そんな感覚でした。しかし、今、産業衛生の現場に携わり、病気のことだけではなく、学生生活と社会人の違い・子育て・親の介護・障害など、様々な悩みがあり、今まで働いてきたすべての経験が役立つ分野であること、そして、それ故に幅広い知識と経験が必要であるとひしひしと感じています。

私が産業衛生の場を離れてから戻るまでの10年足らずの間には、メタボリックシンドロームを含む、健康診断項目の一部改正から始まり、長時間労働者の産業医の面談、受動喫煙防止対策の改正、メンタルヘルス対策など大きな変化があり、産業衛生の基礎知識の入れ直しや、企業内の組織や業務内容など新たに必要な知識もあります。雑学とよばれるような知識もまた予期していないところで役立つこともあり、「経験不足の分は少しでも知識で補う！」という考えのもと突き進んできたことが、間違った動きではなかったのだなと思う日々です。

中災防に在籍していた頃、産業衛生とは何か、これからどのようなことが起こりうるかなど様々なことを教えてくださった産業衛生学会の諸先輩方には今も深く感謝いたしております。育休期間も含め、ブランクがある私ですが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

＊…＊…＊…

メンタルヘルスについて、最近の所感

（株）大和証券　総合健康開発センター
（大阪医務室）
家門　裕子

私は、内科臨床医としての病院勤務を経て、某工場の専属産業医になりました。それから21年、勤務先は変わったものの、継続して産業保健の現場で働いています。

産業医として最初に勤務した工場では、労働者の多くが健康な男性正社員で、そのころの主要な課題はまだ労災対策でした。腰痛対策として製造ラインの高さについて現場の管理監督者と協議したり、有害物質の取り扱いや熱中症予防について衛生教育をしたりしていました。しかし、その会社で働いていた数年の間に景気は悪化し、社内でも別工場の閉鎖やリストラがあり、そのころから心の健康に関する相談が急増しました。

その後勤務した、官公庁、製造業の設計拠点、そして現在勤務している金融機関のすべてで、メンタルヘルスの問題は最重要課題の一つです。このような状況は、様々な社会的要因や経済状況に加え、労働人口の減少を背景とした、女性の社会進出や定年年齢の引き上げ、さらに障害者雇用の推進などで、幅広い年齢の女性や高齢者、疾病や障害を持った人が職場内で増加したことが一因であると考えています。一つの職場に様々な立場や個性、特性、価値観を持った人が集まったことによって、ある種の軋轢がおこっているように思われるのです。相談内容も、業務に関することに加え、職場内の人間関係、セクハラやパワハラ、自身や家族の疾病や障害のこと、家族問題など、多岐にわたるようになりました。ダイバーシティや各種ハラスメントへの理解や対策が進み、「イヤなことはイヤ」と言える環境が、次第に整ってきたことの表れでもあり、必ずしも悪い傾向とは言えないように思っています。

今後、このような傾向がさらに強まっていく中で、産業医として働いていくためには、あらゆる相談に対応し、一人一人の労働者に対し、その人の特性や価値観を考慮した作業環境調整に取り組めるよう、日々研鑽を積む必要性を強く感じる今日この頃です。

＊…＊

産業現場を振り返り今後の産業衛生について思うこと

近畿大学医学部　環境医学・行動科学教室
東　賢一

私は現在、近畿大学医学部で教育研究に従事しています。しかし以前は、化学会社で化学製品の研究開発に従事していました。その当時、芳香族炭化水素類や酢酸エステル類、アクリル酸エステル系モノマーなどをほぼ毎日直接扱っていました。現場では、防護マスクや防護手袋が準備されてはいるのですが、細かな部品を扱う際には直接手で作業をすることもあり、防護マスクの着用も怠りがちで、自分自身の安全性よりも、作業を優先することが多々ありました。皮膚に付着した薬品が浸透し、薬品臭を漂わせながら電車で帰宅することもたびたびでした。

業務の効率を向上するためにアルバイトを雇用することもありましたが、薬品臭が原因で着任初日で辞めるものも少なくなく、多量の薬品を扱う大きな設備で作業するものの中には、化学薬品を扱った際に倒れて医療機関に搬送され、中枢神経障害と診断されたものもいました。健康に支障なく、化学薬品を扱う現場に従事しているものも多いのが現実ですが、化学物質に対する人の感受性にはかなりの個体差があると、そのときから感じていました。

私は現在、化学物質不耐症の研究を行っています。毒性学的なメカニズムではなく、感覚的・心理的な要因が大きく関わっていると考えられていますが、感受性の個体差に関わる背景因子も相当関わっているのではないかと考えています。近年、健康被害を訴える事例では、明白な健康被害が生じた場合を除いては、感覚的・心理的な問題と捉えられるようになる場合が散見され、原因不明のまま対応が進まない場合が多く見受けられます。私の経験にあるように、産業現場でも、化学物質に対する耐性が高いものは長年勤務できているが、勤務できないものも相当数いると考えられます。ここに内在する隔たりを科学的に解明して理解を得られれば、環境改善や雇用確保を含め、産業衛生の将来の発展に大きく貢献でき、一般環境を含めた公衆衛生全体の質的向上にもつながるのではないかと考えています。

シリーズ
自己紹介

私たちの職場（42）

パナソニック（株）

コネクティッドソリューションズ社・北門真地区
産業医　黒木和志郎

会社概要

コネクティッドソリューションズ社は、企業が企業を対象として取引を行うB2B（ビー・ツー・ビー）ソリューションを事業の柱とし、AVCネットワークス社から平成29年4月1日に社名変更し発足しました。現在、本社を東京に移転し、「航空」「製造」「エンターテインメント」「流通」「物流」「パブリック」を重点事業領域としています。

当事業所（北門真地区）は、大阪府門真市にあり、「航空」事業における航空機内AV機器の製造や、「エンターテインメント」の映像音響関連として、プロジェクターやパネルディスプレイの開発・製造を行っています。従業員数は、構内の社員数は約1,500名、派遣や請負社員数が約500名です。

当社の安全衛生は、人間尊重（人命尊重＋人間性尊重）の精神に基づき、現場・現物・現人主義に徹底した活動を推進しています。当事業所もその理念に沿った活動を展開し、工場主体の製造業ですが、無災害記録は12,000日を超えています。

産業保健活動

パナソニックグループ被保険者である約1,500名を健康管理対象としています。産業医、保健師（3名）で、安全衛生管理者や人事部門とともに、従業員の平均年齢上昇による肥満率増加、有所見率上昇、喫煙対策などの諸課題に対し様々な活動を行っています。

【健康管理】

健診結果に応じ、健康リスク区分を定め、事後措置の充実化を図っています。具体的には、脳心臓疾患の健康リスクの程度を、関連の深い健診・問診項目の結果をもとに3段階区分で表示し、就業制限の要否検討や、従業員の自己管理（自己保健義務）へ活用しています。保健師による特定保健指導も柱とし、昨年は対象者の約70％に実施しました。

【受動喫煙対策】

昨年度から受動喫煙防止3か年計画を策定し、2019年度屋内全面禁煙を目標としています。当室もソフト支援として、健診時、喫煙者へ保健師や産業医による短時間全員面談（2～3分）を実施しています。主に喫煙状況の確認やタバコに関する情報、社内の受動喫煙対策の動向を伝え、禁煙への動機づけ要素を増やすことを目的としています。加熱式タバコなどの最新タバコ事情を含めた健康教室も実施しています。今年度からは受動喫煙対策へのソフト支援強化として、健保助成での禁煙治療を社内導入しています。

【健康づくり対策】

パナソニックグループにおける会社・組合・健保の三位一体の活動である「健康パナソニック2018」と連動し、活動展開しています。自身の体力の気づきや、職場コミュニケーション向上を目的に、オフィスAJTA（高さ1.13 mの籠に4 mほど離れた位置から玉入れを行うオフィスでも行える競技）や、転倒防止対策を含めた健康測定（閉眼片足立ち・椅子立ち上がりなど5種の体力チェック）を推進しています。また北門真独自で、始業前にラジオ体操第3の構内放送を導入しています。ラジオ体操第3は、16種類の運動で構成されるアップテンポな全身体操で、他のラジオ体操に比べて運動強度が高く、体操の内容も複雑なことから、心身のリフレッシュや職場のコミュニケーションにも効果があるといわれています。

今年度からは、肥満率増加へ歯止めをかけるため、職場ぐるみの取り組みを目標に、職場毎に健診結果（肥満率や有所見率）や健康づくり活動状況などを項目にしたチャートを作り、職場全体での健康づくりを推進しています。

【メンタルヘルス対策】

早期発見を目的に健診の問診票による体調確認や、ストレスチェック、その他の面談などを通じて活動を行っています。従業員向けのセルフケアや管理職向けにラインケア講習会を行っています。またストレスチェック後には、人事担当者や各職場責任者への集団分析結果の説明会とともに職場毎での職場環境改善を実施しています。

最後に

順風満帆にすべての活動ができているとは言えませんが、それぞれの活動における諸課題については、何度も検討を行い、工夫し、より良い活動になるよう努力しています。今後も従業員の健康支援の一助となれるよう頑張っていきたいと思います。

左から：鳥居安全管理者、松本保健師、黒木産業医、西田安全衛生管理者、福井保健師、内賀嶋保健師

平成30年度「第1回産業精神衛生研究会」を拝聴して

㈱デサント　人事総務部
大阪人事総務課
市口　りえ

川へ石を投げると水面に幾重も輪を描きますが、しばらくすると輪は消え、川は静けさを取り戻します。ストレスチェックも同じだなぁと感じます。制度開始当初は準備のために奔走しましたが、4年目を迎え、静けさを取り戻したのは形骸化してしまったのかもしれません。

ストレスチェックの「集団分析の実際」として、三嶋先生と塩崎先生にご講演いただきました。私は人事の介入が乏しい点が悩みでしたので、受検率や高ストレス者の所属や職種など定点的な結果に関心がある役員を巻き込み職場環境改善に繋げる方法について非常に興味深く拝聴しました。

三嶋先生のお話では、集団分析から職場環境改善事例や長時間残業への対応についてご紹介がありました。総合健康リスク値から、問題および対応策を提起し実践されていました。さらに翌年リスク値は改善し、まさに理想の形でした。

そして、会場からの質問に対し「データだけでなく、基礎資料に職場巡視を通して実際に社員と会話することが重要」と仰っており、感銘を受けました。

ストレスチェックの結果だけでなく勤怠の状況観察や社員からの日常的な健康相談など現場を大切にされた結果が、「働きやすさ」や「残業時間の削減」に繋がったのではないかと考えます。

塩崎先生のお話は、ストレスチェックは集団分析の活かし方や高ストレス者への面接以外のフォローが課題であるとご紹介がありました。また、職場環境改善は形式によって欠点もあり、改めて、産業医、保健師、衛生管理者を明確に役割分担し、未来志向型の職場環境づくりを見直していきたいと思います。

最後に座長の夏目先生より、働き方改革の一方で勤労者の収入が5–7兆円減と試算されているというお話がありました。健康は当然ながら働く人の生活の上に成り立つものであり、生活の基盤は収入であるのも現実です。減った残業代を賞与に一部上乗せして支給し社員に還元する取り組みも始まっていると聞きます。

形だけに捉われず、幅広い視野で日々の産業保健活動を実践していきたいと思いました。

＊…＊…＊…

産業看護部会からのお知らせ

○第２回定例研修会のご案内

日　時：2019 年 2 月 9 日（土）13：30～17：00
（受付 13：00～）

会　場：エルおおさか本館　7 階 709

内　容：

①懇談会：13：30～14：40
「産業保健の最近の動向と産業看護職の役割」
意見交換会を予定
講　師：五十嵐 千代 先生（日本産業衛生学会産業看護部会長）

②講演会：14：50～17：00
「治療就労両立、障害者雇用における合理的配慮～産業看護職が知っておきたいポイントと実践～」
講　師：辻 洋志 先生（南森町 CH 労働衛生コンサルタント事務所　代表）

2016 年 4 月に改正障害者雇用促進法が施行され、事業者は治療就労両立や障害者雇用の場面で合理的配慮の提供が義務づけられました。すでに世界では合理的配慮は産業衛生分野の活動の大きな柱の一つとなっておりますが、輸入された概念ということもあり、日本では労働者はもとより人事や総務の間でもまだまだなじみが薄い状況です。今後、病気や障害を抱える従業員がより働きやすいよう支援するために、産業看護職が知っておきたいポイントと、現場での実践につながる事例を分かりやすくご紹介いたします。

定員：100 名

○産業看護部会本部開催「登録者認定試験準備講座」のご案内

2019 年 1 月に開催される産業保健看護専門家制度の「登録者試験」を受験される方の為の準備講座です。「登録者試験」は保健師国家試験レベルの出題となり広範囲のため、今年度登録者試験の受験を検討されている方は自己学習に活用ください。

日　時：2018 年 11 月 10 日（土）（10 時～ 16 時）

会　場：東京工科大学（JR 蒲田駅徒歩 5 分）
〒 144-0051 東京都大田区西蒲田 5 丁目 23-22
12 号館 2 階

内　容：公衆衛生看護学全般
申込方法等の詳細は産業看護部会ホームページ
（http://sangyo-kango.org/wp/）
でご確認ください。

技術部会からのお知らせ

前号でご案内しましたように、平成 30 年度総会を平成 30 年 11 月 10 日（土）開催の第 58 回近畿産業衛生学会の 2-A 会場において、11：00 ～ 11：30 に開催致します。

議題は事業報告、会計報告、平成 31 年度研修会および今後の研修会についてです。

平成 31 年度研修会は以下のように決まりました。

1. **日　時**：平成 31 年 3 月 9 日（土）13：30 ～ 16：30
2. **テーマ**：「うつ病の予防と治療について」
「うつが消えていく食事療法」 国立精神・神経医療研究センター　功刀 浩 部長
「マインドフルネスによるうつ病予防」　長岡ヘルスケアセンター　若井 貴史 臨床心理士
3. **場　所**：新大阪丸ビル別館

今回の研修会は心理技術研究会との共催です。第 58 回近畿産業衛生学会では、多様性の内包をテーマとして「パーソナリティ障害」について講演とシンポジウムが開かれます。今回はこのパーソナリティ障害とも関連するうつ病をテーマにします。

なお、本研修会は日本医師会認定産業医生涯研修（実地 2 単位・専門 1 単位）を申請予定です。詳細については、次号に掲載いたします。

技術部会の皆様の総会および研修会へのご出席を宜しくお願い致します。

近畿地方会技術部会長　圓藤 陽子

編　集　後　記

10 月から施行されたたばこ税の増税に伴い、加熱式たばこも含むたばこ価格が値上げとなりました。また、7 月に受動喫煙対策を強化する改正健康増進法が成立しました。改正法では法令に違反した場合、喫煙者、施設管理者に初めて罰則規定が設けられ、2019 年のラグビーW杯、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックまでに段階的に施行されていきます。こうした法的な後押しや社会の流れが禁煙推進の大きな契機になれば幸いです。

（村田　理絵）

編集委員（50 音順）
圓藤　陽子　　清原　達也
鈴木　純子（担当理事）
藤岡　滋典（代表幹事）
藤吉奈央子　　村田　理絵（代表幹事）